

## 新茶でホットとひといき

### 献茶祭

5月1日、小一領神社で山都町茶振興会による献茶祭がとり行われました。献茶祭はその年のお茶の豊作や、全国茶品評会での好成績の祈願をしました。

藤原会長は「被災された方へお見舞い申し上げます。自身の茶園も地割れができ、大変な状況です。しかし、被災生活をされている農家の方は、精力を出せない状況でもっと大変な思いをされているかと思えます。くれぐれもケガには注意し、復興に向け頑張ってください。」と話をされました。



### お茶フェス

5月1日に中島の製茶工場前でお茶の普及のためにお茶フェスが開催されました。お茶フェスは今回で4回目の実施になります。

今年も新茶が提供され、手作りの天ぷらやゼリーなどたくさんの料理が振舞われました。来られた皆さんはお茶と手料理にホットと一息されていました。



### 新茶祭り

5月22日、道の駅通潤橋前で新茶祭りが開催されました。通潤橋前広場では今年できた新茶の販売やお茶の手もみ体験にたくさんのお店が並びとてもにぎわいを見せていました。

ほかにもステージイベントや利き茶体験などが行われ、大変盛り上がりました。



お茶の手もみ体験

## 心のリフレッシュになれば

5月8日、原地区公民館で仲町商店街による原地区激励バーベキュー大会が行われました。

これは、仲町商店街の皆さんが被害の大きかった原地区のみなさんに少しでも心のリフレッシュができればと開催されました。

当日は仲町商店街のスタッフ約22名、原地区のみなさんが約55名集まり、地震の日のこと、避難所生活のこと、これからのことなど話し過ごされました。

仲町商店街の飯星会長は「バーベキュー後のみなさんの声が明るく大きくなっていたので本当に良かった。」とおっしゃいました。

激励会の終わりには、原地区のみなさんがスタッフの方へ「本当にありがとうございました。」、スタッフのみなさんは「がんばってください。」とあたたかい言葉が交されました。



## 自給自足体験

3月30日、潤徳小学校の敷地内にある学童保育どんぐり楽校が白糸地区の下田さん宅において、五感を働かせる事で、電気が使えなくても生きる力などを身につけることを目的に自給自足体験が行われました。

米や水の分量を手の指や腕を使い量り、近くで燃えるものを探し、火をおこして釜でご飯を炊いていました。釜でご飯を炊いている時も子どもたちは、火の様子、音やにおいを感じていました。炊き上がるまでの時間を利用し、食べられる野草と食べられない野草または効能を学びながら採取していました。採取した野草は味付けし、おかずにしていました。

ご飯が炊き上がると、大きな声で「いただきまーす!」と元気よく食べていました。子どもたちは「ごはんが甘い!」、「おこげのいいにおい!」など自分たちの力で炊き上げたご飯に、大満足の様子でした。



## 目標は粃で7斗

5月13日、馬見原東部老人会と蘇陽南小学校の児童で田植え体験が行われました。世代間交流の一環として毎年実施されており、今年は5年生12名が馬見原地区の田んぼを借りてもち米を植えました。はじめは慣れない手つきで田植えをしていましたが、時間が経つにつれて上手に植え終わりました。児童からは「今年はおかしをつくりたい!」と希望があり、田んぼに設置する計画もできました。

馬見原東部老人会の田中会長は「目標は粃で7斗は収穫したい。」と収穫に向け、意気込まれました。



## 自分たちにできることを

5月2日から国道218号線から清和小学校を見ると校舎2階に「復興支援お疲れ様ですありがとうございます!」とメッセージが掲げられています。

これは6年生の児童が呼びかけ、校舎にメッセージを掲げることになり、5・6年生26名で作成しました。

清和小学校からは国道218号線を通る復興支援と書かれたトラックや自衛隊車両がよく見え、日頃から手を振ったり、「ありがとう!」と言葉を送ったりしています。

児童からは「自分たちにできることをしたかったからできてよかった。」との声がありました。



清和小学校の5・6年生